

【別紙1-1】 2020年度・KESエコロジカルネットワークの取組み

希少植物の生息域外保全活動で栽培に取り組む植物

- * A～E, G, I, Jの中から希望する種を選択できます（複数可）。ただし、C, D, E, H, J, Kの6種については、セット数（苗数）に限りがあるため、申し込み順とします。（2020年度はカワラナデシコ・アヤメ・クリンソウを扱いません。）
- * 2014～19年度に栽培している種があれば、2020年度での継続栽培も可とします。
- * 自事業所内に緑化できる場所がある場合、適期にその場所に移植し栽培することも可とします。
- * 社内・社外での啓発・広報に努めましょう。
- * 植物の株は、すべて、京都市及びその周辺の産地に由来するものです。栽培セット（苗）の経費は、これらを含む京都ゆかりの希少植物保全のための事業に活用しています。
- * 「活用」の方法は、各団体と調整のうえお知らせします。野生復帰（かつての自生地への再導入）に活用させていただく場合もあります。
- * 栽培指導協力：公益財団法人京都市都市緑化協会、一般財団法人葵プロジェクト

A フタバアオイ（ウマノスズクサ科 多年草）



1400年続く葵祭に欠かせない植物です。環境省・京都府のレッドデータブックに記載はありませんが、環境の変化で激減しています。ハート形の葉が特徴で、双葉の間に、小さな赤い花が下向きに目立たないように咲きます。一般財団法人「葵プロジェクト」（上賀茂神社内）などによって保全繁殖が図られています。

環境省レッドデータブック：記載なし
京都府レッドデータブック：記載なし

- ◆**育て方**：木かげ、軒下などの半日陰。乾燥や強い日射を嫌います。明るい室内でも可能。
- ◆**花期**：3月～5月
- ◆**活用**：希望する事業者は、上賀茂神社に株を返納していただくと、「葵祭」で使われます。
- ◆**栽培セットの経費**：
3株＋容器等 5,000円

B フジバカマ（キク科 多年草）



源氏物語にも登場する秋の七草の一つで、水田の畔、河川敷など水辺に育つ植物ですが、府内ではほとんど見られなくなりました。一般に流通するのは別種。葉は香料となり、海外との渡りをする蝶アサギマダラが蜜を好むことでも知られます。KBS京都・緑化協会、各地の保全団体などが栽培保全に取り組んでいます。

環境省レッドデータブック：準絶滅危惧（NT）
京都府レッドデータブック：絶滅寸前種

- ◆**育て方**：日当たりを好みます。夏場は水を十分にやります。風通しに注意します。
- ◆**花期**：（鉢植）9月下旬～10月
- ◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。
- ◆**栽培セットの経費**：
5株＋容器等 5,000円

C ヒオウギ (アヤメ科 多年草)



鮮やかな朱色の花が祇園祭に合わせるように咲き、厄除け・魔除けとして鉾町などに飾られます。葉の形がヒノキの薄板を重ねた檜扇に似ていることが名の由来とされます。タネは漆黒で、「ぬばたま」「うばたま」の別名があります。

一般にはこれより背が低い変種(ダルマヒオウギ)の系統が流通しています。

環境省レッドデータブック：記載なし

京都府レッドデータブック：準絶滅危惧種

◆**育て方**：日当たりを好みます。比較的乾燥にも強い。

◆**花期**：7月中旬～9月

◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。

◆**栽培セットの経費**：

3株+容器等 3,000円

*30セット限定です。

D キクタニギク (キク科 多年草)



京都の東山を流れる菊溪(菊谷)川の河川敷に、かつて自生していたことが和名の由来です。江戸時代まで川の周辺は全国から文人も訪れるキクの名所でしたが、現在は環境の変化で自生は確認できません。

明るい葉色で、晩秋に小さな明るい黄色の花を多数咲かせます。

環境省レッドデータブック：準絶滅危惧 (NT)

京都府レッドデータブック：絶滅危惧種

◆**育て方**：日当たりを好みます。風通しに注意します。

◆**花期**：10月下旬～11月

◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。

(2016年度は京都伝統文化の森推進協議会・京都市主催「キクタニギクの咲く菊溪川の再生へ」に活用予定)

◆**栽培セットの経費**：

3株+容器等 3,000円

*20セット限定です。

E オミナエシ (スイカズラ科・旧オミナエシ科 多年草)



秋の七草の一つ。日当たりの良いやや湿った山野に自生。別名「あわばな」とおり粟粒ほどの細かい花が咲きます。繊細な姿から「女郎花」と書き、近縁種オトコエシ(男郎花)と対をなします。盆花に使うほか、乾燥した根、茎、花は解熱などに効く生薬「敗醬」(はいしょう)となります。農林業の衰退とともに生育する里草地が減ってきています。

環境省レッドデータブック：記載なし

京都府レッドデータブック：準絶滅危惧種

◆**育て方**：日当たりを好みます。夏期は乾燥に注意します。

◆**花期**：8月～10月

◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。

◆**栽培セットの経費**：

1株+容器等 3,000円

*15セット限定です。

H フレモコウ (バラ科 多年草)



秋に紅紫色の穂状の小さな花をつけます。わびさびを感じさせる地味な姿や色合いから、茶花、生け花としてもよく使われます。根・根茎を天日乾燥させたものは、生薬となり、吐血、下痢、やけどなどの治療に用いられます。若い葉は食用にもなりました。東アジア、シベリア、欧州に広く分布。京都周辺では、近年、自生地の丘陵などで見かけることが減っています。

環境省レッドデータブック：記載なし
京都府レッドデータブック：記載なし

- ◆**育て方**：日当たりを好みます。水はけ、風通しに注意します。乾燥にさほど強くなく、夏は注意します。
- ◆**花期**：7月～10月
- ◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。
- ◆**栽培セットの経費**：
2株+容器等 3,000円
*10セット限定です。

J ノカンゾウ (ススキノキ科またはワスレグサ科 多年草)



7～8月にユリに似た大きな橙～赤色の一重の花を咲かせます。近縁のヤブカンゾウ(八重咲きの帰化植物)などとともに、多くの変種や栽培品種を含むヘメロカリス(ワスレグサ属)の仲間です。

若芽や花は山菜として、つぼみや根は薬用にされました。「忘れ草」の名で古くから親しまれ、植えたり身につけると、憂さや人恋しさを忘れられると信じられて、文芸にも数多く登場します。

環境省レッドデータブック：記載なし
京都府レッドデータブック：絶滅危惧種

- ◆**育て方**：日当たりが良く、湿気のある土を好みます。夏場は鉢皿などで水を切らさないようにします。3年に一度は植替えをします。
- ◆**花期**：7月～8月
- ◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。
- ◆**栽培セットの経費**：
1株+容器等 2,500円
*10セット限定です。

K タムラソウ (キク科 多年草) (新規)



日当たりの良い山地の草原に生え、草丈は30cmから大きなもので1.5mにもなります。晩夏から秋にかけ、紅紫～薄紫色の花を咲かせます。一見、アザミ類によく似ていますが、茎や葉にトゲがないため扱いやすく、花も優美で、生け花、茶花に使われています。地方によっては若葉が食用になりました。

名の由来はなぞです。アキノタムラソウはシソ科で、全く別の植物。タムラソウの別名タマボウキは、コウヤボウキの別名でもあります。

環境省レッドデータブック：記載なし
京都府レッドデータブック：記載なし

- ◆**育て方**：日当たりと風通しを好み、やや乾燥気味に育てますが、盛夏はしっかりと水をやります。
- ◆**花期**：8月～10月
- ◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。
- ◆**栽培セットの経費**：
2株+容器等 2,500円
*10セット限定です。